

人とまちをつなぐ「交流ストリート」に人々の活動があふれ出す交流拠点

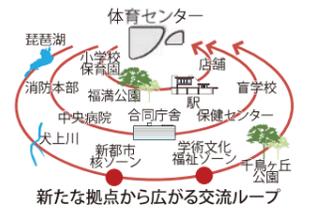


①計画のコンセプト

計画地の特性

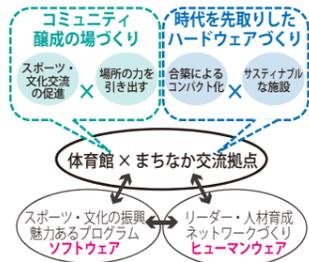
①まちとつながり、育み、回遊性を高める場

・(仮称)彦根市新市民体育センターは、南彦根駅から近く、公園や学校や病院、庁舎、消防とも近接する。新たなまちづくりの拠点となることから広域的なまちづくりを意識し、まちの回遊性を取り込み、一体性を高める場とする。



②合築のメリットを最大化するコミュニティ醸成の場づくり

・基本方針で、体育館に求められてきた快適な競技環境づくりに加えて、「コミュニティ醸成の場づくり」、「時代を先取りしたハードウェアづくり」を重視した計画とする。
スポーツ活動と文化活動のソフトウェアが、人材育成のヒューマンウェアにつながり交流のサイクルが生まれる、交流の核となる場づくりを行う。



③多様な空間を「ひとつ」に

・体育館機能とまちなか交流拠点機能が、まちと密接につながりながら、ひとまとまりになることを目指し、まちづくりの新たな交流拠点をめざす。

建物のコンセプト

■気軽に立ち寄れる・市民交流のきっかけとなる「交流ストリート」

・敷地中央を南北に通る「交流ストリート」を設け、まちの回遊性を取り込んだ計画とし、通りに面してトレーニング室やダンス室、コミュニティスペース（スポーツラウンジや交流ラウンジ）を配置し、スポーツから文化活動まで様々な活動が垣間見え、市民が気軽に立ち寄り・関心を誘発する計画とする。

■スポーツと文化が融合する市民交流拠点

・スポーツ機能とまちなか交流拠点機能をひとまとめとすることで、多様な世代のニーズに対応し、賑わいと交流を生み出す計画とする。適度な距離感を持った構成により、それぞれの単独利用も柔軟に対応できる。市民利用を重視した施設計画とする。



②建築概要

用途：総合体育館、地域交流センター（まちなか交流施設）

建物規模：地上3階 鉄筋コンクリート造

建築面積：10,060 m²

延床面積：

用途	1階	2階	3階	合計
総合体育館	7,080 m ²	4,050 m ²	865 m ²	13,265 m ²
地域交流センター (まちなか交流施設)	1,270 m ²			

※今後詳細設計及び確認申請時に面積の変更が発生することがあります。

主な諸室一覧

<総合体育館>

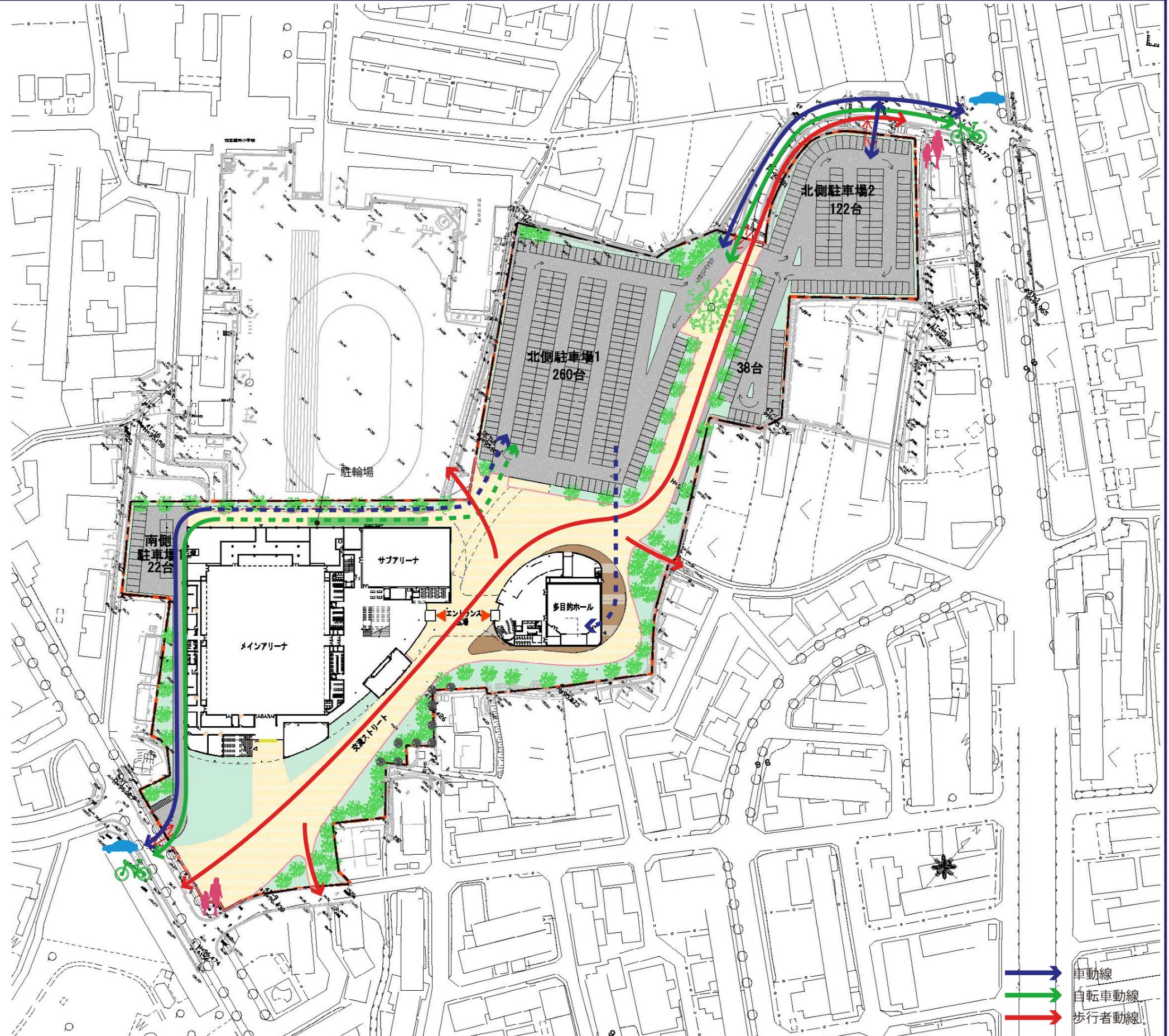
メインアリーナ、サブアリーナ、器具庫、トレーニング室、ダンス室、スポーツラウンジ、事務室、託児室、授乳室、清掃員室、選手更衣室、一般利用者更衣室、男女トイレ、障害者用トイレ、医務室、役員室、大会本部室、放送室、遠的場（控室、射場、ギャラリー、矢取道他）、近的場（控室、射場、ギャラリー、矢取道他）、機械室、外部倉庫、防災備蓄倉庫、倉庫 他

<地域交流センター（まちなか交流施設）>

多目的ホール（ホール、ステージ、倉庫、控室）、まちなか交流ラウンジ、図書・学習ラウンジ、男女トイレ、倉庫、機械室、会議室1・2・3、教養文化室、多目的会議室、喫茶コーナー、相談室、手洗い・水飲み場 他

③配置・動線計画基本方針

- ・近隣住民の日常動線となる通り抜け通路（交流ストリート）を整備する。
- ・交流ストリートは歩行者専用とし、歩車分離を徹底する。
- ・歩行者は、交流ストリートを通って、敷地を通り抜けることができ、エントランス広場から施設にアクセスすることができる。
- ・交流ストリートは、小学校とつながり、安全な通学路とする。
- ・駐車場は、南側に22台、北側中央に260台、北西側に160台設置する。
- ・駐車場へのアクセスは、南側駐車場へは南側の道路から、北側中央と北西側の駐車場へはくすのき通りから出入りとする。
- ・イベント時、緊急時、搬入時には、車は体育館と校庭の間に南北に通り抜けて利用できるようにする。
- ・交流ストリートを中心とする外構部分は、夜間も通り抜ける公園と連続する遊歩道として整備し、周辺から視線が通り抜ける形状するとともに、外灯計画を行い、安心安全な空間づくりを目指す。
- ・敷地全体を最大限有効活用し、死角の少ない目の行き届きやすい計画とする。

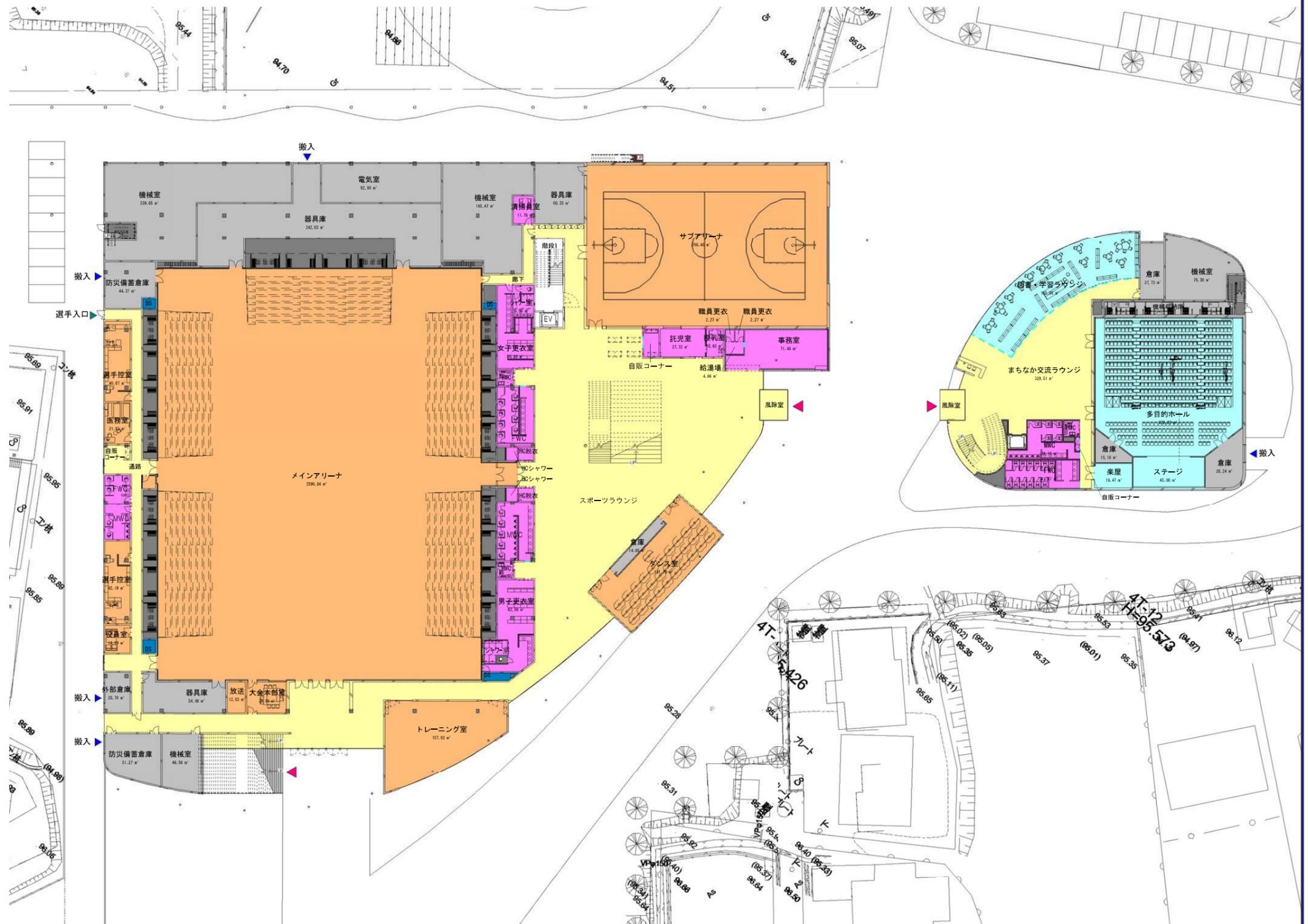


④平面計画の基本方針

- ・使いやすい、管理しやすい事務機能とする。
- ・大会やイベント時の明快な動線分離ができる計画とする。
- ・まちなか交流拠点機能を単独利用しやすい計画とする。
- ・スポーツと文化をつなぐ計画とする。
- ・必要諸室を共有し、コンパクトなボリューム計画とする。
- ・交流ストリートに対して、賑わいを発信する計画とする。
- ・弓道場（近的・遠的）は、大会活用できる計画とする。
- ・屋上を効果的に活用する計画とする。

■1階平面基本計画

- ・1階にはメインアリーナ、サブアリーナ、トレーニング室、ダンス室、更衣室、選手控室、多目的ホール、図書・学習ラウンジ等を配置する。
- ・メインアリーナは、スポーツラウンジや交流ストリートからアクセスでき、選手用の動線と交差しない位置に配置する。
- ・サブアリーナはスポーツラウンジからアクセスでき、託児室からは互いに視認できる位置に配置する。
- ・事務室は施設中央に設け、施設内外へ目が行き届きやすい計画とする。
- ・ダンス室、トレーニング室はスポーツラウンジからアクセスでき、交流ストリートに面する位置に配置することで、賑わいを発信する計画とする。
- ・多目的ホールはまちなか交流ラウンジからアクセスすることができ、体育館側の興行等から独立した利用が可能とする。
- ・図書・学習ラウンジはまちなか交流ラウンジから利用することができ、交流ストリートに面した位置に設けることで、賑わいを発信する計画とする。



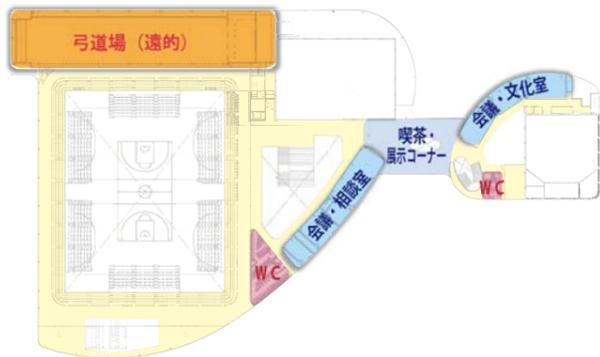
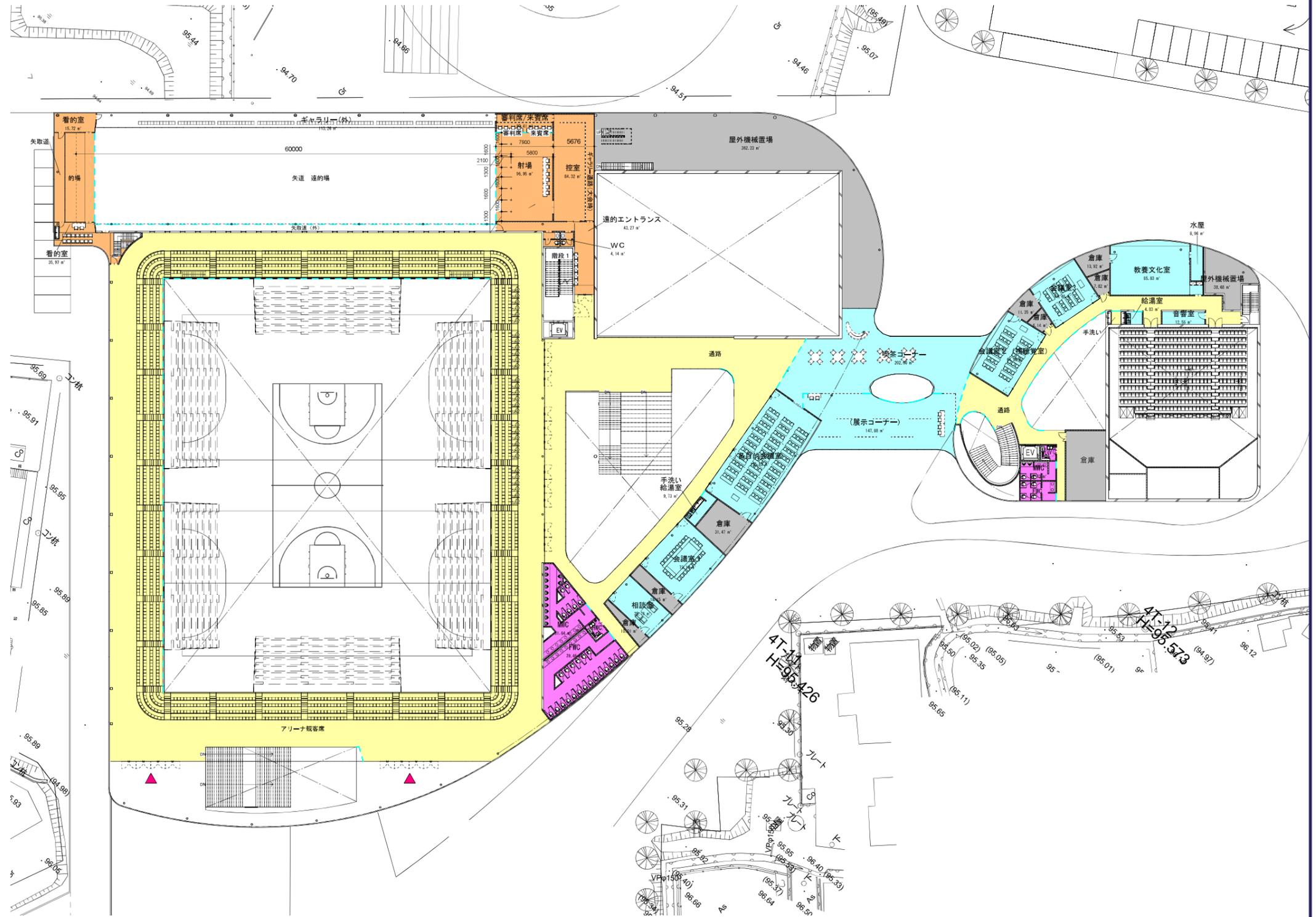
<1階平面ゾーニング計画>

凡例

- /スポーツ関連諸室
- /まちなか交流諸室
- /管理諸室
- /共用部・廊下
- /倉庫・機械室

■2階平面基本計画

- ・2階には、アリーナ観客席、弓道場（遠的）、多目的会議室、会議室、教養文化室、相談室等を配置する。
- ・体育館とまちなか交流拠点とをつなぐ通路に喫茶・展示コーナーを設け、互いに共有できるコミュニケーションラウンジとなるような計画とする。
- ・会議室を交流ストリートに面した中央に集約することで、地域に対して賑わいを発信する計画とするとともに、会議室を共有し、必要諸室を最小限とすることで、コンパクトなボリューム計画とする。
- ・便所は共用部分に配置し、大会時は共用廊下を経由して利用する計画とする。
- ・遠的場（遠的）は、建物北側に配置し、中央階段等からアクセスすることが可能な計画とする。
- ・多目的会議室は展示コーナーと隣接し、一体利用が可能な計画とする。



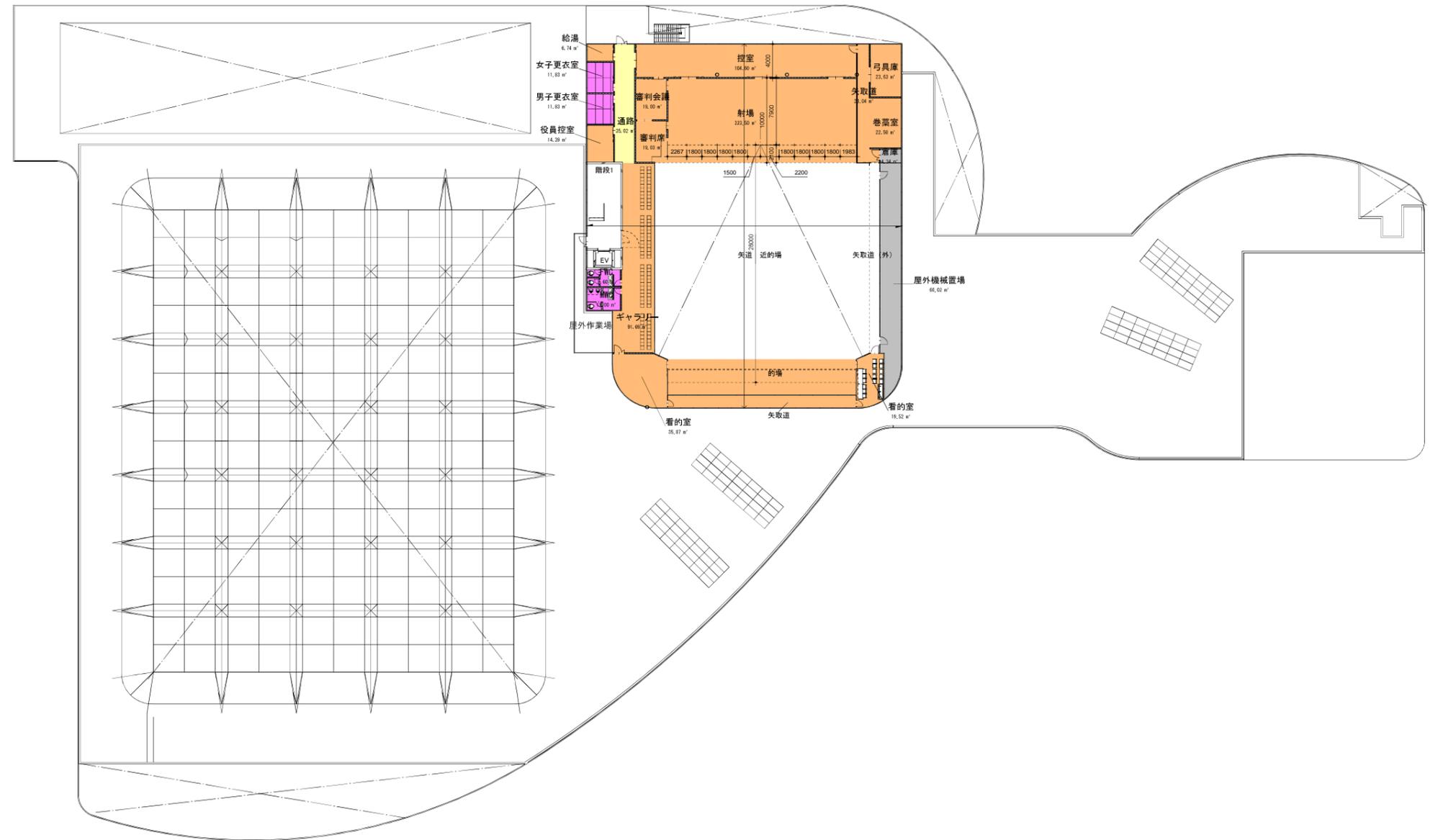
<2階平面ゾーニング計画>

凡例

	/スポーツ関連諸室		/まちなか交流諸室		/管理諸室		/共用部・廊下		/倉庫・機械室
--	-----------	--	-----------	--	-------	--	---------	--	---------

■3階平面基本計画

- ・3階には弓道場（近的）、ギャラリーを配置する。
- ・弓道場（近的）は10人立が確保できるスペースを確保する。
- ・約100人程度のギャラリースペースを確保する。
- ・専用の更衣室、役員室、WCを設け、独立した機能を確保する。
- ・屋上には、太陽光発電設備スペース、屋外機械置場スペースを確保する。



<3階平面ゾーニング計画>

凡例

	/スポーツ関連諸室		/まちなか交流諸室		/管理諸室		/共用部・廊下		/倉庫・機械室
--	-----------	--	-----------	--	-------	--	---------	--	---------

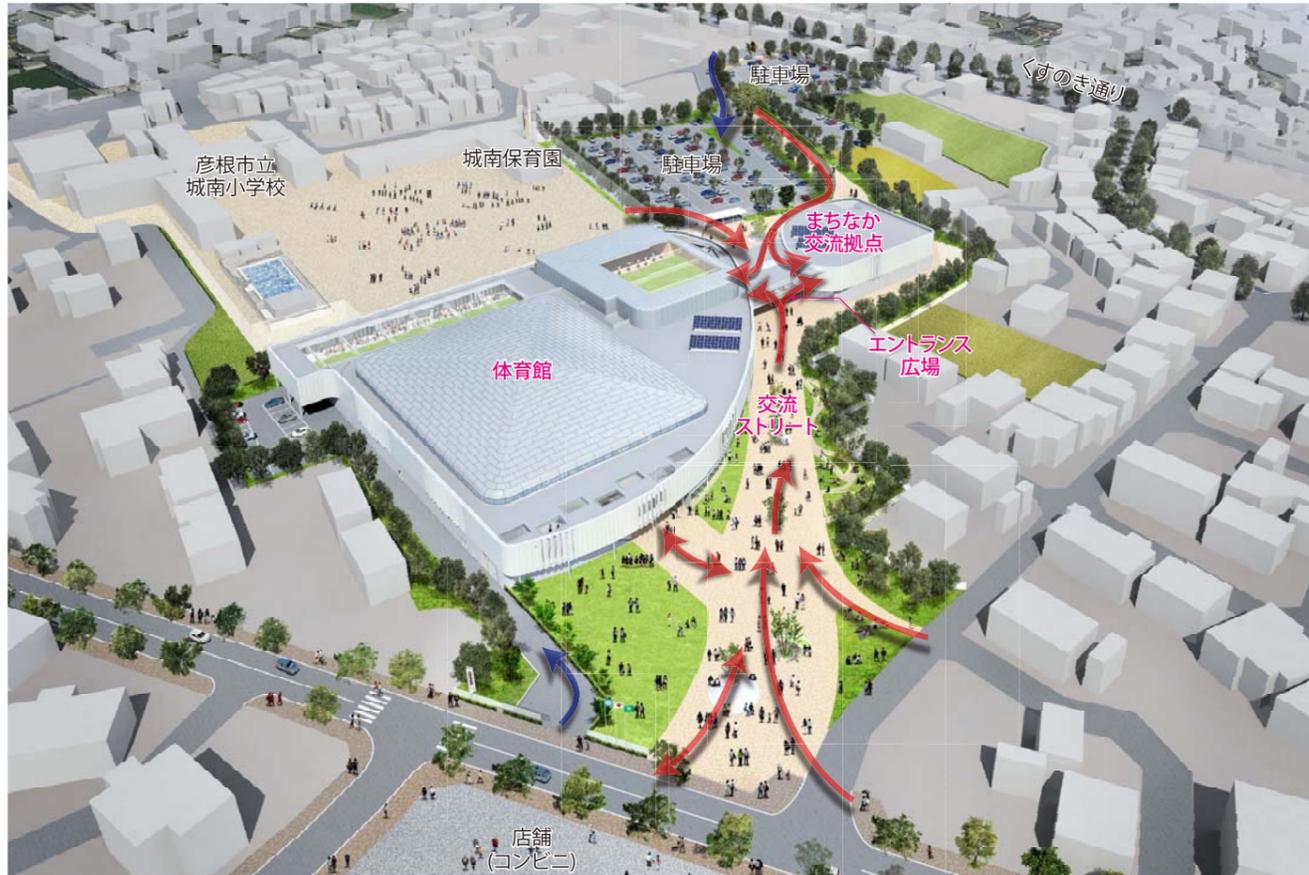
⑤ 立面計画・断面計画

■ 立面計画の基本方針

- ①敷地中央を南北に通る抜け道「交流ストリート」を実現する建物形状
- ②通学路として、目が行き届く安心安全な建物形状
- ③南側にも北側にも両方に顔がある建物形状

■ 立面計画について

- ①南彦根駅周辺の回遊性を高める「交流ストリート」が敷地中央を通り抜ける計画とし、建物形状は見通しの良い安心安全なものとするため、ゆるやかな曲線を用いた形状とする。
 - ・「交流ストリート」に面してトレーニング室やダンススタジオ、図書ラウンジや会議室を配置し、スポーツから文化活動まで、様々な活動が垣間見え、市民が関心を高めるきっかけとする。



見通しの良い「交流ストリート」を実現する建物形状

- ②計画地は小学生や園児の通学路として、また周辺住民の通り抜け道として利用されてきた。より安全に通行できるよう、死角の無い、目の行き届く建物形状とし、日常的に利用されるオープンスペースとする。

- ③駅からアクセスする人々は南側から、車利用者は北側から施設にアプローチし、南北両側から施設利用者が訪れる。施設中央に屋根のある半外部のエントランス広場を設けることで、どちらからアクセスしても様々な活動が垣間見える「表の顔」のある建物形状とする。



①南側から見たイメージ



②交流ストリートから見たイメージ



③エントランス広場のイメージ (南側から見た時)



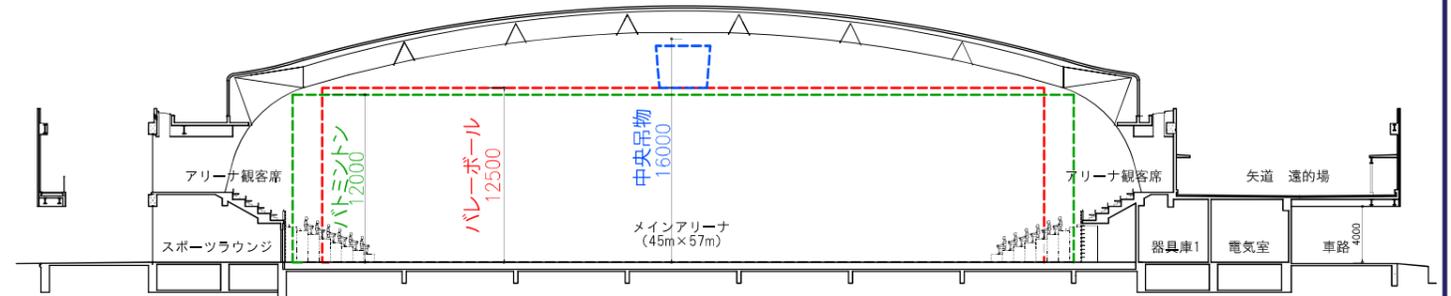
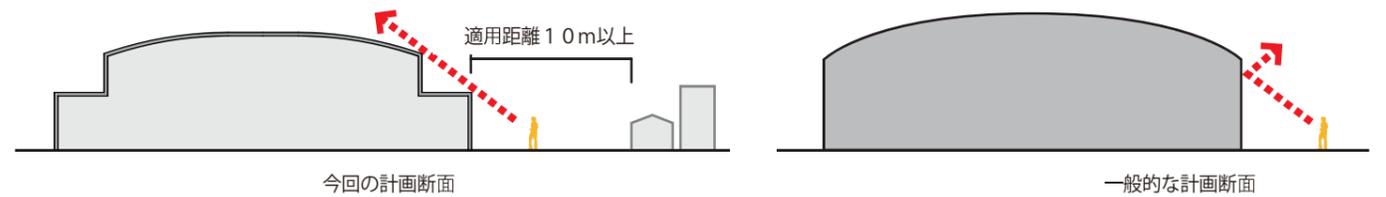
④北側駐車場から見たイメージ

■ 断面計画の基本方針

- ・周辺に調和するボリューム計画

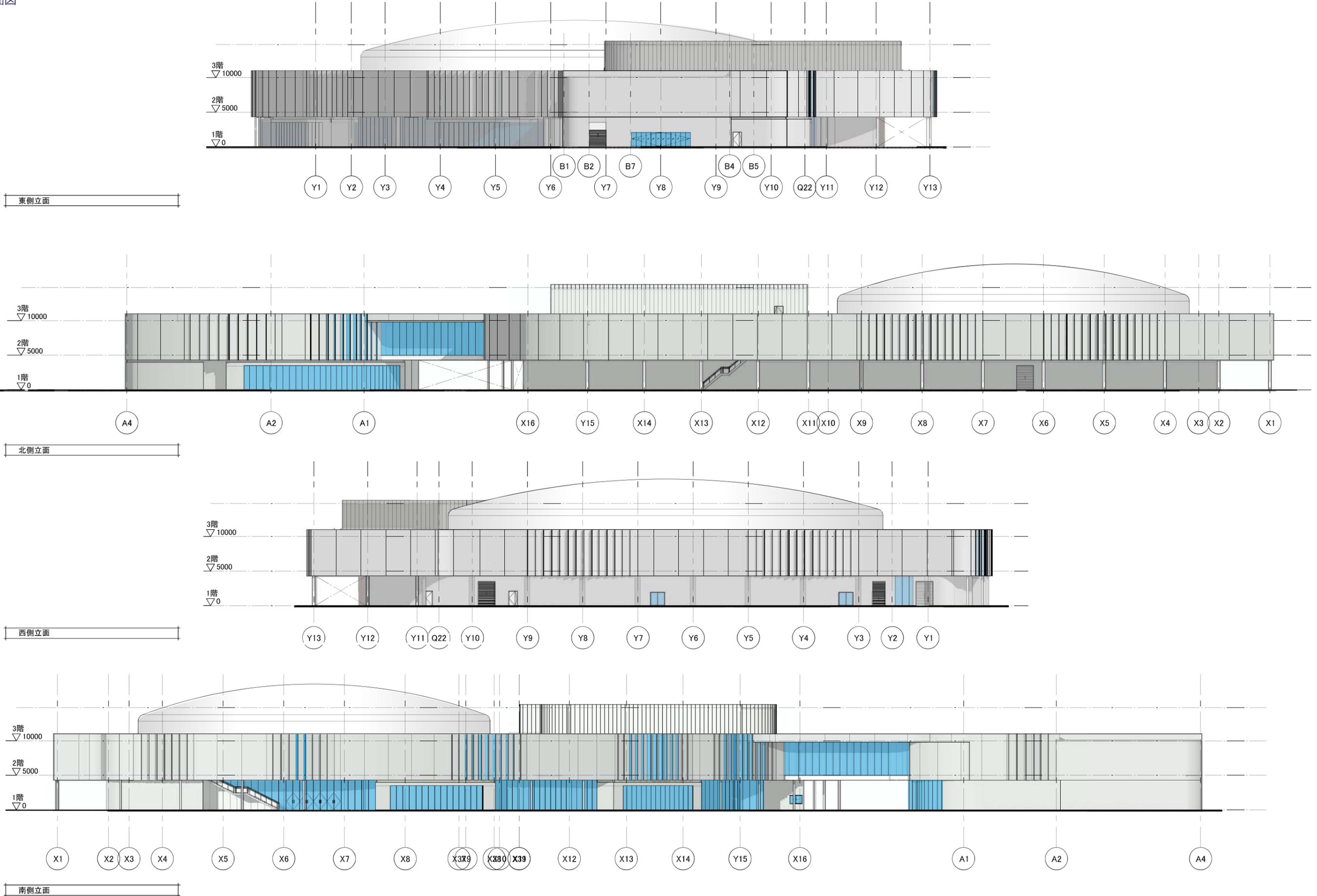
■ 断面計画について

- ・アリーナは競技に必要な天井高さやイベント等に必要な吊物高さを確保しつつ、必要最小限の建物高さに抑えた計画とし、住宅地や小学校、保育園への圧迫感と日影による影響を最小限にする。
- ・アリーナ以外の諸室や共用空間等の屋根はアリーナと分け、適材適所の高さ設定とすることで、よりボリュームを抑えた計画とする。
- ・人々の活動が主役となるよう、建物はシンプルな造りとする。
- ・建物の外壁は、周辺の公共施設に調和するモノトーン系の素材（コンクリートやGRCやECP等）を使用する。



- ・メインアリーナは、バレーボールのコートから12.5m、バドミントンのコートから12mの天井高さを確保する。
- ・メインアリーナ中央部分にはモニターを吊ることができるように16mの天井高さを確保する。

■立面図



■断面図

